

授業科目	授業番号： 1			担当者	小林朋子・木戸裕子・土肥克己
	文学の世界			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の文学 【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？ この授業では、3 人の教員がアメリカ、日本、中国の 3 か国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。 【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（プリント資料配付） (2) ビギナーズクラシックス『古事記』（角川ソフィア文庫） ビギナーズクラシックス『源氏物語』（角川ソフィア文庫），その他必要に応じて授業時に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 17 世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード 第 2 回 18 世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』 第 3 回 19 世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス 第 4 回 20 世紀アメリカ文学：人種系文学 第 5 回 20 世紀アメリカ文学とその後：自己の探求 第 6 回 日本文学：紫式部と『紫式部日記』 第 7 回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（1） 第 8 回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（2） 第 9 回 日本文学：清少納言と『枕草子』 第 10 回 日本文学：赤染衛門と『赤染衛門集』 第 11 回 中国の文学：三国志の魅力（1） 第 12 回 中国の文学：三国志の魅力（2） 第 13 回 中国の文学：三国志の魅力（3） 第 14 回 中国の文学：三国志の魅力（4） 第 15 回 中国の文学：日本での三国志				
授業外学習 (予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可）				
成績評価の方法	期末レポートの提出（70 点），および講義に関する毎回の意見・感想等（30 点）で評価します。レポートは 3 人の教員が出した課題から 2 つを選んで書くことになります。				
実務経験について	なし				

（注）文学科を除く。

（注）受講者が 60 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	授業番号： 2			担当者	帛尾 達哉
	日本の歴史			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。 【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心を呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。 【到達目標】日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 騎馬民族征服説（1） 日本史を学ぶ意義何か 第 2 回 騎馬民族征服説（2） 日本の国家はいつ成立したか 第 3 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（1） 銘文発見の経緯 第 4 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（2） 銘文の釈読 第 5 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（3） 銘文発見の歴史学的意義 第 6 回 古代の罪と罰（1） 平城宮跡から出た墨書土器 第 7 回 古代の罪と罰（2） 日本律の科刑軽減 第 8 回 古代の罪と罰（3） 贈答と賄賂 第 9 回 中世の悪口 罵倒のことばに見る中世社会 第 10 回 絵巻を読む（1） 絵巻とは何か 第 11 回 絵巻を読む（2） 描かれた中世の人びとのしぐさ 第 12 回 絵巻を読む（3） 女性の一人旅 第 13 回 古文書を読む（1） 正倉院文書の残された休暇願・借用書 第 14 回 古文書を読む（2） 戦国時代の古文書 第 15 回 古文書を読む（3） 江戸時代の離縁状				
授業外学習 (予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。 復習：配布プリント・ノートを参照しながら、授業内容を見返す				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				
実務経験について	983 年より鹿児島大学法文学部において日本史担当教員として勤務。				

授業科目	授業番号： 3			担当者	安部 幸志
	こころの科学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】心理学について理解し、その方法論や知見の応用について知識を深める。思春期・青年期の心理や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。 【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。 【到達目標】①現代におけるこころの問題を理解するために、科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防に関する知識を身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎事プリントによる資料を配布する。 (2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会, 2015 年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い』有斐閣, 2011 年				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 心理学とは：科学としての心理学 第 3 回 こころの進化：動物にもこころはあるか 第 4 回 こころの発達：赤ちゃんの心理 第 5 回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理 第 6 回 こころの発達：中年期と女性の心理 第 7 回 こころの発達：老年期の心理 第 8 回 性格：血液型と認知バイアス 第 9 回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 感覚・知覚 第 10 回 感覚・知覚 第 11 回 記憶の不思議 第 12 回 災害と心理 第 13 回 社会と心理 第 14 回 心理療法 第 15 回 ストレス				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 4			担当者	北 一浩
	芸術論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【概要】 芸術の中でも難解といわれる 20 世紀以降の現代アート（造形芸術）を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【到達目標】 さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。				
(1)テキスト	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 現代アートとは？：西洋美術史、現代アート、ルネサンス 第 3 回 伝統と違うから興味ない？：アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像 第 4 回 美しいとは思えないのだけれど？：パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち 第 5 回 何が描いてあるかわからない：ワシリー・カンディンスキー、コンポジションⅣ 第 6 回 上手だとは思えないのだけれど？：キルヒナー、ストリートシーンベルリン 第 7 回 これがアートといえるの？：マルセル・デュシャン、泉 第 8 回 そんなに値打ちがあるものなの？：ピエト・モンドリアン、コンポジションⅢ 第 9 回 わかったような、わからないような：ルネ・マグリット、光の帝国 第 10 回 何なのか、意味がわからない：マーク・ロスコ、無題 第 11 回 アートとアートでないものの違いって？：アンディー・ウォーホル、ブリロボックス 第 12 回 許せる？許せない？：リチャード・セラ、傾いた狐 第 13 回 きれいなのに汚い？：アンドレス。セラノ、ピス・クライスト 第 14 回 名作はあなたが見つかるもの 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	毎講義中のミニレポート（60％） 講義内で行うワーク（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	授業番号： 5			担当者	田口 康明
	日本国憲法			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的人権を中心とした日本国憲法に理解。 【概要】 教員、公務員、会社員その他の職業に就くにせよ社会制度の多くは法によって定められている。その根本はいうまでもなく憲法である。どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、人権を主にとりあげそれらの歴史的、社会的背景をもとりあげることとする。 【到達目標】 憲法が存在する意義について理解できる。 日本国憲法の構造（人権）について理解できる。 現実の問題について自分なりの見解をまとめることができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業内で随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方 第 2 回 憲法とは何か 立憲主義を考える。 第 3 回 日本国憲法の誕生 憲法の制定過程について学ぶ。 第 4 回 国民主権と象徴天皇制 国民主権の意義や象徴天皇制を考える。 第 5 回 憲法 9 条と平和主義（その 1） 憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。 第 6 回 憲法 9 条と平和主義（その 2） 憲法 9 条をめぐる裁判等を検討する。 第 7 回 基本的人権（基本的人権とは） 憲法で基本的人権が保障されている意義を考える。 第 8 回 基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界） 自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。 第 9 回 基本的人権（包括的基本権） 憲法 13 条の幸福追求権について考える。 第 10 回 基本的人権（自由権 その 1） 内面の自由について考える。 第 11 回 基本的人権（自由権 その 2） 人身の自由と経済的自由権について考える。 第 12 回 基本的人権（社会権 その 1） 生存権について考える。 第 13 回 基本的人権（社会権 その 2） 教育を受ける権利、勤労の権利について考える。 第 14 回 基本的人権（参政権）、国民の義務 選挙権などの参政権と、国民の義務について考える。 第 15 回 これまでのまとめと補足				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	原則、最終試験（公務員試験レベルの択一問題）によって評価するが、小レポートを課した場合、それも評価に加える。評価割合は、授業内にて示す。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 6			担当者	藤野 博行
	法学			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】法の基本を学び、論理的思考力を身につけるための基礎力を涵養します。 【概要】法学は「常識と正しいバランス感覚をふまえて、論理的に物事を考えて課題解決する力」を身につけるための学問です。そこで本科目では、身の回りで起こりうる課題について、解決に必要な法的知識を学んだのち、皆さんの「常識」と「バランス感覚」を頼りにグループで考えることにより、社会に出た時に必要な「課題解決力」の基礎を身につけます。 【到達目標】①法学に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（資料を配付します） (2) 伊藤真『法学入門』日本評論社（2022 年）1760 円 ISBN-13:978-4535527157				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス（講義内容・受講上の注意事項等）、②アイスブレイク 第 2 回 法の特徴とその役割について。 第 3 回 ①法の種類、②法の階層構造、③（演習）ルールを決める最良の方法は？ 第 4 回 ①裁判で用いられる証拠の種類、②（演習）様々な証拠から事実の存在を推測する。 第 5 回 ①法解釈（文理解釈と目的論的解釈）②（演習）実際に法律を解釈する。 第 6 回 ②法解釈（演習）日常生活での困りごとを「法解釈」で解決する 第 7 回 ①前半の復習、②中間テスト 第 8 回 中間テストの解説と講評 第 9 回 ①契約とはなにか？、②契約が成立すると発生する効果とは？ 第 10 回 （演習）自分たちの身に起こるかもしれない課題の解決策を考える。 第 11 回 （演習）身近に起こりうる課題の解決法について考える 第 12 回 （演習）実践的な法解釈にチャレンジする（公園のベビーカー進入）。 第 13 回 （演習）実践的な課題解決にチャレンジする（公園のお祭りのルールを作る） 第 14 回 （演習）実践的な課題解決にチャレンジする 第 15 回 後半の復習とまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容（25 点）中間試験（25 点）、期末試験（50 点）				
実務経験について	なし				

他学科・他専攻の人たちと仲良くなつてほしいので、座席指定をします。また、原則として毎回グループワークがあります。

授業科目	授業番号： 7			担当者	中嶋 晋平
	社会学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】社会学の基本的な考え方を理解するとともに、社会の視点から現代社会を理解する。 【概要】社会学は、私たちにとって当たり前の存在である「社会」を冠した学問である。複雑さを増す現代社会の解決に社会学が貢献できる余地は多い。ところが日本では、大学・短大などの高等教育機関以外で社会学を学ぶ機会がないため、どのような学問であるかを理解している者は少ない。本講義では社会学の基本的な考え方やものの見方を学ぶとともに、社会学の視点から現代社会が抱える課題をとらえ直す能力を身につけることを目的とする。 【到達目標】社会学とはどのような学問か、その基本的な考え方を理解する。社会学の視点を通して現代社会の課題を理解する力を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 間淵領吾・酒井千絵・古川誠編（2022）『基礎社会学 新訂第5版』世界思想社 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 社会学の歴史① 第 3 回 社会学の歴史② 第 4 回 社会学の発想 第 5 回 社会調査とデータ 第 6 回 社会学の基本概念 第 7 回 変貌する家族① 第 8 回 変貌する家族② 第 9 回 学歴と社会 第 10 回 社会の病理 第 11 回 社会と環境 第 12 回 社会と環境② 第 13 回 差別と社会 第 14 回 差別と社会② 第 15 回 多文化共生の時代				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	毎回の振り返り小テスト				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 8			担当者	山口 祐司
	生活と経済			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活に関わる身近な観点（生産と消費、賃金と労働、税と社会保障）を手がかりに、経済の見方を学んでいきます。 【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第 2～3 回）。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第 4～6 回）。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第 7～10 回）。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第 11～14 回）。 【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 人間社会と経済の発展 第 3 回 戦後日本の経済発展と現在 第 4 回 生産と消費（1）ものづくり 第 5 回 生産と消費（2）サービス 第 6 回 生産と消費（3）社会的存在としての企業 第 7 回 労働と賃金（1）働くということ 第 8 回 労働と賃金（2）働きすぎの日本社会 第 9 回 労働と賃金（3）失業、不安定就労、貧困問題 第 10 回 労働と賃金（4）人間らしい労働への取り組み 第 11 回 税と社会保障（1）日本における税負担の構造 第 12 回 税と社会保障（2）税制度の公平性 第 13 回 税と社会保障（3）社会保障制度の役割 第 14 回 税と社会保障（4）日本における社会保障の貧困 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。				
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

(注)書受け学科を除く

授業科目	授業番号： 9			担当者	担当教員
	キャリアデザイン			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	通年	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】1 年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。 【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウ・ハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。 【到達目標】8 回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 ◆5 月 1 4 日（水）（特設時間を利用） 第 1 回 総論 キャリア、キャリアデザインとは 第 2 回 ◆6 月 1 1 日（水）（特設時を利用） 第 2 回 自己分析 志望動機 第 3 回 ◆7 月 9 日（水）（特設時間を利用） 第 3 回 企業研究の必要性和そのやり方 第 4 回 ◆9 月 1 7 日（木）3 限 第 4 回 企業が求める人材 1 第 5 回 ◆9 月 1 7 日（木）4 限 第 5 回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ 第 6 回 ◆1 0 月 1 5 日（水）（特設時間を利用） 第 6 回 働いて「困った」への対応方法 第 7 回 ◆1 1 月 6 日（水）（特設時間を利用） 第 7 回 これから働くあなたへのメッセージ 第 8 回 ◆1 2 月 1 8 日（水）（特設時間を利用） 第 8 回 企業が求める人材 2（パネルディスカッション） 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 （予習・復習）					
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%）				
実務経験について					

※令和 7 年度の講師については適宜掲示する。

授業科目	授業番号： 10			担当者	愛甲 正
	数学の世界			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な数学を理解し、さらに数学を楽しむ 【概要】中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を楽しむことを目的とする。 【到達目標】基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 講義内容をまとめたプリントを配布する。 (2) 講義中に適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 実数・有理数・無理数 第 3 回 白銀比とコピー用紙・黄金比 第 4 回 確率（くじ引きの順番） 第 5 回 指数と対数（利息計算への応用） 第 6 回 指数と対数の計算（電卓の利用） 第 7 回 データの最頻値・中央値・平均値・箱髭図 第 8 回 データの分散・標準偏差・偏差値 第 9 回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理 第 10 回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量 第 11 回 数列（等差数列・等比数列） 第 12 回 数列の和の極限（曲線の囲む図形の面積の例） 第 13 回 弧度法と円の面積 第 14 回 非ユークリッド幾何の紹介 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	基本的に復習が中心となる。講義中に課題レポートについて指示する。				
成績評価の方法	レポート（100％）による				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務（昭和 56 年 4 月～昭和 62 年 3 月）				

授業科目	授業番号： 11			担当者	藤井 伸平
	物理の世界			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。 【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。 【到達目標】物理学を身近に感じる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（適宜プリントを配布） (2) 適宜授業中に紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 講義の概要 第 2 回 基本的な量について 第 3 回 大気圧について 第 4 回 地球の大きさ・丸さについて 第 5 回 釣り合いとてこの原理について 第 6 回 摩擦と慣性について 第 7 回 ロケットについて 第 8 回 ガリレオ温度計について 第 9 回 気化熱について－その 1 第 10 回 気化熱について－その 2 第 11 回 電気について－その 1 第 12 回 電気について－その 2 第 13 回 磁場について－その 1 第 14 回 磁場について－その 2 第 15 回 まとめ （理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。）				
授業外学習 (予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を収集しまとめる。				
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第 1 回目の講義で説明します。)				
実務経験について	なし				

(注) 受講生が 70 人を超えた場合は人数を制限します。

授業科目	授業番号： 12			担当者	塔筋 弘章
	生物の科学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】細胞・遺伝・進化 【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫をすることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。 【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (pdf ファイルにて配付する) (2) 適宜指示				
授業 スケジュール	第 1 回 生命の機能単位：細胞 第 2 回 代謝：エネルギー産生のしくみ 第 3 回 染色体、細胞周期および細胞分裂 第 4 回 遺伝の法則：メンデルの法則 第 5 回 DNA：遺伝におけるその役割 第 6 回 DNA：遺伝子型から表現型まで 第 7 回 分子生物学、ゲノムプロジェクト 第 8 回 動物の発生 第 9 回 発生における遺伝子発現 第 10 回 進化論：ラマルクとダーウィン 第 11 回 種分化 第 12 回 生物の進化（1）：生命の歴史、単細胞から多細胞へ 第 13 回 生物の進化（2）：動物の進化 第 14 回 生物の進化（3）：恐竜から鳥へ 第 15 回 生物の進化（4）：猿人からヒトへ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（60％）＋ 授業ごとに実施する小テスト（40％）				
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師				

(注)食物栄養専攻を除く

授業科目	授業番号： 13			担当者	古川那由太・木下朋美
	化学の世界			授業外対応	オフィスアワーを参照
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。 【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりからの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。 1～6回：古川、7～15回：木下 【到達目標】化学的視点から、課題を探究し、解決していくための基本的な能力を培う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協				
授業 スケジュール	第 1 回 気体の化学（元素と原子、大気成分、気体の密度） 第 2 回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材） 第 3 回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発） 第 4 回 エネルギーの化学（火力発電、原子力発電、核融合炉、次世代エネルギー） 第 5 回 生物の化学（生体物質の分類、五大栄養素の化学的特徴） 第 6 回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人） 第 7 回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶 第 8 回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法ーカテキン等の茶成分への影響（1） 第 9 回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法ーカテキン等の茶成分への影響（2） 第 10 回 緑茶に付加価値をつける 仕上げ加工（ブレンド・火入れ）・アミノカルボニル反応 第 11 回 味をも作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体 第 12 回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とドリンク茶）・茶成分の品質への影響 第 13 回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習） 第 14 回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質・ポリフェノール、香気成分等 第 15 回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）				
授業外学習 （予習・復習）	復習を重視する。				
成績評価の方法	古川担当分（40%）：授業ごとのレポート 木下担当分（60%）：レポート				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 14			担当者	牛山紗稀子・中島一喜・木下朋美・古川那由太
	食生活と健康			授業外対応	担当ごとに適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】健康な食生活を送るためにはどのようにしたらよいのか 【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報は少なくない。本講義では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたよいかについて、各種の活動を取り入れて実践的に学ぶ。 【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 健康な食生活：健康とは何か？（牛山） 第 2 回 食文化と食生活：鹿児島の食文化（木下） 第 3 回 調理と食生活：食品の調理特性（木下） 第 4 回 口腔と健康：口内環境正常化（古川） 第 5 回 口腔と健康：味覚を変える食品（古川） 第 6 回 食生活と生活：食品加工と保蔵（中島） 第 7 回 食生活と生活：食品の機能性（中島） 第 8 回 食生活と生活：保健機能食品（中島） 第 9 回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその働き（牛山） 第 10 回 健康な食生活：食事バランス（食品の選択）（牛山） 第 11 回 健康な食生活：ダイエット（牛山） 第 12 回 健康な食生活：生活習慣病（牛山） 第 13 回 健康な食生活：運動・睡眠・休養（牛山） 第 14 回 健康な食生活：飲酒・喫煙（牛山） 第 15 回 まとめ：健康な食生活とは（牛山）				
授業外学習 (予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する				
成績評価の方法	レポート及び小テスト（70%）、授業への取り組み（30%）を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。				
実務経験について	病院管理栄養士として勤務（牛山）、国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事（中島）				

授業科目	授業番号： 15			担当者	福田 忠弘
	平和論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは、国際社会や日本国内で生じた諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。 【概要】平和論で取り上げるテーマは多岐にわたるが、本講義では「積極的平和」というキーワードをもとに、紛争、安全保障、平和構築、枯葉剤被害などを取り上げる。 【到達目標】平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人間が自由にその能力を発揮できる状態を指すことを理解できることを到達目標とする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 多賀秀敏編『平和学から世界を見る』（成文堂，2019 年）。 (2) 講義中に適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する 第 2 回 暴力の多様性：暴力という概念について 第 3 回 安全保障：21 世紀における平和と安全保障 第 4 回 核兵器：被爆者の視点から 第 5 回 反核兵器政策：平和首長会議を中心に 第 6 回 地域紛争：ウクライナから考える 第 7 回 ベトナム戦争：ベトナムにおける枯葉剤被害 第 8 回 ベトナム戦争：アメリカにおける枯葉剤被害 第 9 回 民族紛争：民族浄化という考え方 第 10 回 沖縄と平和：戦後日米関係における沖縄 第 11 回 平和構築：紛争後の社会をどのように構築するか 第 12 回 日米同盟と米韓同盟：同盟の日韓比較 第 13 回 東アジアの平和：分断体制をいかに乗り越えるか 第 14 回 国際協力：今後の国際協力について 第 15 回 まとめ：平和の多様性について				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	学期末に課すレポート（100%）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 16			担当者	井村 隆介・柴村 奈緒子・浅海 真弓・岡村 雄輝
	環境問題			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を異なる視角から考える 【概要】自然史（井村），森林科学（柴村），生活科学（浅海），経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える。 【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う				
(1)テキスト	(1) プリントを配布				
(2)参考文献	(2) 國部克彦（編集），神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』，中央経済社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第 2 回 鹿児島県自然史（1）鹿児島と気候変動 第 3 回 鹿児島県自然史（2）鹿児島の地震と火山 第 4 回 鹿児島県自然史（3）鹿児島の植生史 第 5 回 鹿児島県自然史（4）鹿児島の自然と人 第 6 回 森林科学（1）：動物と植物の相互作用【遠隔授業】 第 7 回 森林科学（2）：獣害【遠隔授業】 第 8 回 森林科学（3）：外来種【遠隔授業】 第 9 回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題） 第 10 回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品ロスの現状と課題） 第 11 回 生活科学（3）：環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み） 第 12 回 経済社会（1）：企業と公害（1） 第 13 回 経済社会（2）：企業と公害（2） 第 14 回 経済社会（3）：企業と地球環境（1） 第 15 回 経済社会（4）：企業と地球環境（2）				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	各教員の課題（20～30 点満点）×4＝100 点とする				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 17			担当者	宗田健一，福田忠弘，他
	かごしまと世界			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本県の発展に寄与する人材を育てるため、鹿児島に関する知識「郷土知」を深めつつ、国際感覚を高め、幅広い視点を養成する。そのために、産業・貿易・観光振興の各分野で実際に鹿児島の発展に寄与してきた方々のお話を取り入れながら進めていく。 【概要】① グローバルな視点から鹿児島を評価し、海外との交流促進の可能性を学ぶ ② 郷土鹿児島の特徴や強みを再認識し、地域発展に貢献する国際人材を育成する ③ 産業・貿易・観光各分野における本県のポテンシャルを最大限に生かした地域振興を担う国際人材を育成する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 必要に応じて授業中に印刷資料を配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 (10 月 14 日) : 「かごしまの地域資源」(東川美和) 第 2 回 (10 月 21 日) : 「ユネスコ無形文化遺産「和食」のベース"だし"の正体」(横山恵美) 第 3 回 (10 月 28 日) : 「カツオ節に隠されたドラマをあなたに」(福田忠弘) 第 4 回 (11 月 4 日) : 「0 から探す焼酎の魅力」(古市美由紀・赤崎真紀) 第 5 回 (11 月 11 日) : 「世界に広がるかごしま茶の展望と課題」(木下朋美) 第 6 回 (11 月 18 日) : 「地域資源の活かしたビジネスの始め方」(下園正博) 第 7 回 (11 月 25 日) : 「鹿児島のかめ壺作り黒酢」(重久雅志) 第 8 回 (12 月 2 日) : 「仮: 観光業からみた鹿児島 (鹿児島の稼ぐ観光について考える)」(島津忠之) 第 9 回 (12 月 9 日) : 「鹿児島の素材から広がる「サステイナブルビューティー」(黒木靖之) 第 10 回 (12 月 16 日) : 「守破離: 和紙×デザイン」(原口敬子) 第 11 回 (12 月 23 日) : 「鹿児島 100 年の食」～伝えていきたい食と心 (千葉しのぶ) 第 12 回 (1 月 6 日) : 「かごしまの食の魅力を全国に発信! スタートアップ企業の挑戦と今後の展望」(大藺順士) 第 13 回 (1 月 13 日) : 「世界とつながる鹿児島ーグローバルサプライチェーンと地域産業ー」(宗田健一) 第 14 回 (1 月 20 日) : 「まとめ」(福田忠弘) 第 15 回 多文化共生の時代				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	各回のリアクションペーパー (60%)，学期末に課すレポート (40%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 18			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2～4 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。				
(1)テキスト	(1) 未定（事前指導のなかで指示する）				
(2)参考文献	(2) 未定（事前指導のなかで指示する）				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(101%)				
実務経験について					

(注) 商経学科を除く

授業科目	授業番号： 19			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	通年	2 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定（事前指導のなかで指示する） (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

(注) 商経学科を除く